

じんけん

～出会い 気づき 発見～

編集・発行／川西市人権推進課
〒666-8501 川西市中央町12-1
☎ 072-740-1150
FAX.072-740-1151

お互いを尊重し、豊かな人権文化を築きましょう!

私たちは皆、自分の存在や尊厳が守られ、自由に幸せを追い求める権利「人権」を持っています。同時に、私たちは他者との関わり合いの中で生きており、多様な個性を認め合い、共に社会を支えていくということが求められています。

しかし、現在、さまざまな人権侵害が発生しています。最近では、いじめや体罰、児童虐待、インターネットでの誹謗・中傷、プライバシー侵害など、他者の人権を考えないような問題も起きています。



12月4日～10日は人権週間です

昭和23年(1948年)12月10日、第3回国連総会で初めて人権の保障を国際的にうたった「世界人権宣言」が採択されたことを記念し、12月10日は「人権デー」と定められており、日本では、毎年12月4日～10日を「人権週間」として全国各地で啓発活動

を行っています。
川西市では、「人権週間映画会」や人権作文・人権フォトコンテストなどを実施しています。
この人権週間を機会に、お互いを尊重することの大切さを考え、豊かな人権文化を築きましょう。

入場無料

※ご来場の際は公共交通機関をご利用ください。

人権週間映画会

※当日先着順
入れ替えなし

【とき】12月10日(木)
【ところ】みつなかホール
【定員】各480名
【主催】川西市
【問合せ】☎072-740-1150 人権推進課

〈1回目〉10:15～12:16… きみはいい子
〈2回目〉13:00～14:54… トラッシュ!
〈3回目〉15:10～17:11… きみはいい子
〈4回目〉18:00～19:54… トラッシュ!

きみはいい子

(日本語 字幕付) 2014年 日本 121分



児童虐待、いじめ、学級崩壊、認知症など現代社会が抱える問題を通して、「幸せとは何か」を描き出す。かつて子どもだったすべての人に贈る。
主演／尾野 真千子 他

トラッシュ!ーこの街が輝く日までー

(日本語吹替 字幕付) 2014年 イギリス/ブラジル 114分



ブラジル・リオデジャネイロ郊外で、ゴミ拾いをして暮らす3人の貧しい少年たちは、ある日ゴミ山で一つの財布を拾ったことから絶望の街に奇跡を呼び起こしていく人間ドラマ。

Cinema

Cinema

第6回

人権フォト

コンテスト inかわにし

入賞作品紹介

テーマ「いのち」

ひいばあちゃん はじめまして

松本 忍さん(けやき坂)

最優秀賞

九州の田舎に家族で帰省し、はじめて曾祖母に抱かれ笑顔を見せてくれました。



絆

酒見 英子さん(大和西)

優秀賞

3人のつながりが微笑ましく…。



わあ! 冷たい!!

吉田 茜さん(小花)

佳作

地下水を汲みあげてもらって、大はしゃぎ!

クイズ

次の空欄(○の中)を埋めてください。

- 1 毎月第3〇曜日は、川西市の人権デーです!
- 2 今年度の人権作文コンテストの最優秀賞の題名は? 「うれしい〇ば」
- 3 折り鶴平和大使が、折り鶴を捧げてきた場所は? 「原爆の〇の像」

※クイズ正解者には、図書カード(1,000円分)を5人に差しあげます。(正解者多数の場合は抽選。図書カードの発送をもって発表にかえさせていただきます。)

【応募方法】ハガキにクイズの答え、今回の広報じんけんで興味のある記事と感想、住所、名前、年齢、電話番号を記入し、下記あて先まで
【あて先】〒666-8501 川西市人権推進課「クイズ」係
【締切】12月14日(月)消印有効

2015年 折り鶴平和大使 ヒロシマ日記

戦後・被爆70年 かわにし折り鶴平和大使に選ばれたのは、市立明峰小学校6年生の米田愛実さんと大阪教育大学付属池田中学校1年生の中川裕未さんです。

2人の大使は、8月6日に広島市で開催される平和記念式典に市民の代表として参列するとともに、市民が平和への願いを込めて折ったリンドウ色の折り鶴を平和公園の原爆の子の像に捧げました。



市民から寄せられたたくさんの折り鶴



市長から2人に折り鶴を託される

7月
31日(金)

壮行式

●大塩市長さんから市民の皆さんが心を込めて折られた鶴を受け取った時、原爆で亡くなられた方々に、この折り鶴に込められた想いが届くよう、しっかりと使命を果たそうと心に誓いました。(中川)



真剣に助野さんから体験談を聞く2人

●壮行式の後、川西市にお住いで広島で子どもの時に被爆された助野さんから貴重なお話を聞かせていただきました。最後に、「現地で、しっかり学んで平和のためにできることを考えてきてください。」と私たち2人に言われました。私はそのことをしっかりと心にとめて広島に行こうと思いました。(米田)

8月
5日(水)

広島到着

●8月5日の広島は、修学旅行でいった時より人がものすごく大勢いました。原爆ドームをあらためて、しっかり見ると下には大量のがれきが落ちていて、鉄骨がぐにゃぐにゃに曲がっていて、本当にあの時のおそろしさを知ることができました。また、遺族の方たちが平和公園の色々な場所で、「もっと戦争や原爆のおそろしさを知ってください。」など思いをうたえていました。私は、それを見て、もっと遺族の方たちの思いを知らないといけないと思いました。(米田)



●平和記念資料館では思わず声を失ってしまいそうな遺品が並んでいました。大仏が溶けていたり、熱線により人が座っていたところだけ黒くなっている石などがあり、今の時代ではありえない事が70年前には起こっていたのだと思うと背中がぞくぞくしました。(中川)

●平和祈念館で行われた「被爆体験記朗読会」にも参加しました。「原子爆弾がおちると昼が夜になって人はおぼけになる」という詩が脳裏に焼きついています。とても短い詩ですが、この詩の中に被爆された方の恐怖や失望感が詰まっていると感じました。(中川)



原爆の子の像に折り鶴をささげる



平和記念式典



祈りをささげる平和大使

●私は、初めて8月6日の平和記念式典に参列しました。世代をこえ国境をこえて大勢の人が式典に参列していました。祈りを真げんにささげている姿を見て、平和を願う人がこんなにたくさんいるんだとあらためて思いました。(米田)



式典会場前にて

●前へ進めないほどのたくさんの人が式典に参加されていました。その中には外国人もたくさんいました。今も世界ではたくさんの核兵器が作られており、いつ、どこに落とされるかわからない状況があります。これからは一人ひとりが自分たちでできる「小さな平和」をつくり、70年前に起きた出来事を二度と繰り返さないように平和についてもう一度、みんなで真剣に話し合う必要があると式典に参加しながら強く思いました。(中川)

折り鶴平和大使になって

●広島市長の平和宣言の中に、「『広島をまどうてくれ!』これは故郷や家族、そして身も心も元通りにしてほしいという被爆者の悲痛な叫びです。」という私の一番好きなフレーズがあります。原爆が落とされてから70年。広島はきれいになりましたが、被爆者や遺族の方の心の深いきずはきれいになりません。だから、せめて、被爆者や遺族の方の思いをわかって後世にその思いやおそろしさを伝えて、二度と戦争をおこさないようにしたいです。私は、この体験を自由研究にして、みんなに知ってもらったり、戦争の本を読んだりしました。これからも、少しずつ自分にできることをやっていきたいと思いました。(米田)

●私は、この2日間で、平和の大切さをたくさん学ばせていただきました。平和公園では「ノーモア・ヒロシマ」というスローガンをたくさん見ました。「ヒロシマの悲劇を繰り返さない」という意味です。これから、戦争・被爆を体験された方々が少なくなっていく中で、戦争を昔のここのように思わず、体験者の話に耳を傾け、次の世代へ思いをつないでいくことが平和への一歩だということを改めて感じました。(中川)

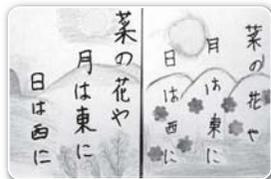
つながりを大切に

「夜間よみかき教室」

今、日本は高度情報社会と言われ、多くの文字情報があふれています。もし、文字の読み書きができなかったら、私たちの生活はどのようなのでしょうか。たとえ、新聞などの情報紙が読めない、買い物なども思うようにできないなど様々な支障が出てくるでしょう。その結果、自分の世界が、どんどん狭くなり、まわりの人や社会とのつながりが希薄になってしまふことが考えられます。

川西市内にも、子どもの頃に学校に行けなかった、最近日本に来たなどの理由で、日本語の読み書きに困っている人、日本語を学んでみようと考えている人がおられます。

総合センターでは、そのような人たちと一緒に「よみかき教室」を毎週火曜日の午後に行っています。「よみかき教室」では、読み書きを中心に、一人ひとりに応じた様々な学習を行っています。



優秀賞

川西北小学校5年 辻田 直樹さん



ぼくは、高齢者問題について書くことと想ったきっかけは、自分の家に一緒に住む事になったおばあちゃんにききかけで書くことと想いました。おばあちゃんと一緒に暮らし、5年前に川西市へ引っ越しをしてきて、要支援2介認定を受けたおばあちゃんも生活が始まりました。ぼくの住んでいる家の森は坂が多くて下りも上りもおばあちゃん足が痛い痛いと言います。ぼくは後から支えてあげて一緒に坂を上ります。荷物も時々もってあげます。七十二才のおばあちゃんにはとてもつらい道です。歩くのもこんなになつたので人工関節を入れる手術をしました。家の中は足がまがらなくなつたので風呂の中にも手すりをつけました。ヒザがまがらなくなつたのでトイレの座イスを上げる工事をしました。家の中は、おばあちゃんが少しでも生活がしやすくなるために色々工事をしたりハリアリーになり、おばあちゃんは、リハビリをしながら足もよくなってきました。でも一歩外に出たら高齢者についていけん人が多すぎます。だん

差も多いし、手すりがあつてほつたらいいのにないのです。その時ぼくは、ほつたら「かたをかみや」と言います。

足の悪い人やお年よりの方がいれば、電車の中で席をゆずってあげます。お出かけをしたい高齢者の方は、大変な場面が多いので、まわりにいる私達へく達か、出来る手助けをしてあげなければいけないと感じます。

そして、おばあちゃんも、よく自分が置いた物がなくなつたりと言っています。お母さんは、「にん知しん知しんは、お年よりの病気だからせめたらあかんよ」と教えてくれました。ここに置いてたか分からなくなつた時は「一緒にさかしてあげます。おばあちゃん一人では生活がこななくなつてきたので、一緒に歩く一緒に生活してあげたい。一緒に生活する人が大切なんだと分かりました。これからは高齢化は、大きな社会問題になると思えます。若い世代の人達が、高齢者が生活していく上で生活しやすいように耳をかたむけ、一緒に生活していく気持ちで、住みやすい社会を作りたいと思います。

ぼくは、これからは高齢者の方のお役にたつていきたいと思います。

(学校)があるので、「よみかき教室」に行くことができない」という声を受けて、総合センターの登録グループにより毎週金曜日の夜に「夜間よみかき教室」も実施されています。「夜間よみかき教室」は、ボランティア講師により運営されています。市民の方に協力していただくことで、より多くの方に異文化に対する理解を深めていただきたいと考えています。



川西市総合センター

(川西隣保館・川西児童館)

人権について一緒に考えてみませんか

「人権」と聞くと一見むずかしそうに思いますが、決してそんなことはありません。人権は私たちにとって一番身近で大切なものです。総合センターでは、講演会や上映会などを行い、市民のみなさんが人権について考える機会を提供し、「人権文化」を育む活動を行っています。

国から来られた方の話...
「対して指導をしてもらえるので、気軽に質問できるところがいいなと思います。」
文字の読み書きを通じていろいろな知識が身に付き、世界が広がります。わたしは、子どもと散策している時に、身近な草花の話ができるようになって、とてもうれしいです。

「夜間よみかき教室」でボランティア講師をしてもらえる方の話...
「日本語を教えるためには、私自身も、日本語を学び直す必要があります。日本語の奥の深さを感じることができ、また、外国の方と話すことができ、外国の文化に触れることができ、楽しいです。」

読み書きの能力は、単に生活に必要な情報を受信したり、発信したりするだけのものではなく、人と人、社会とのつながりに欠かれないもの一つです。「よみかき教室」では、「つながり」を大切に活動しています。

※読み書きを学びたい、ボランティア講師をしてみたいという方は、総合センターへご連絡ください。

第28回川西市人権教育研究大会のご案内

- 日時/平成28(2016)年2月17日(水)9:50~16:00
- 場所/中央公民館 他
- 内容/10:30~12:00▶記念講演「出会いは心の光」

参加無料
自由に
参加ください

- 講師/落語家/桂 福点さん
- 川西緑台高等学校放送部/薄井 真晃さん

13:00~16:00▶分科会

【主催】川西市人権教育協議会 【後援】川西市・川西市教育委員会 【問合せ】人権推進課へ



特設人権相談所を開設します。

- 日時/12月4日(金) 13:00~16:00
- 場所/市役所7階 大会議室
- 日常生活での不当な差別や人権侵害などの相談をお受けします。
- 相談には、人権擁護委員が応じます。秘密は守られます。



※特に予約はいりませんが、予約も可能です。毎月第3金曜日(原則)にも特設人権相談を行っています。

北朝鮮人権侵害問題啓発週間(12月10日~16日)

12月10日から16日までは「北朝鮮人権侵害問題啓発週間」です。

拉致問題は、我が国の喫緊の国民的課題であり、この解決を始めとする北朝鮮当局による人権侵害問題への対処が、国際社会を挙げて取り組むべき課題とされる中、この問題についての関心と認識を深めていくことが大切です。

北朝鮮当局による人権侵害問題に対する認識を深めよう

毎月第3金曜日は、川西市の人権デーです!

セクマイ 相談・学習会を毎月第4木曜日 13:30~16:00まで行っています。

私たちは日常的に、男性・女性という二つの枠組みで色々な事を考えがちです。しかし、実際の性・セクシュアリティはもっと複雑で多様です。身体の性と心の性が一致しない場合、恋愛の性が異性に向かない場合、心の性や恋愛対象が揺れ動いたり、また、どちらかに決めたくないなど、特定の枠にはまらない場合もあります。

これらの性的マイノリティ(少数者)は、2015年の電通ダイバーシティ・ラボの調査では、約13人に1人という結果が報告されています。

しかし、実際にそれほど多くの人に実感されないのは、ありのままの自分を出さない、または、隠さざるを得ない状況にあるからだと考えられます。

最近では少しずつ、「セクマイ」や「LGBT」といった、性的マイノリティに関する言葉を耳にする機会が増えてはいますが、浸透というレベルには至っておらず、正しく理解している人もごくわずかです。そのため、否定的な情報が多量に、否定的にとらえる人もおり、マイノリティの生きづらさにつながっています。

